

液状化で地中から飛び出したマンホールを保存した震災モニュメント。千葉県浦安市高洲で（村上樹撮影）



千葉県浦安市で、東日本大震災による液状化で地上に突き出したマンホールの震災モニュメントがひっそりと完成した。震災を後世に伝えようとする保存に着手した市に対し、一部住民から「忘れたくない記憶をわざわざ思い出させる」と反発の声が上がっていた。市はお披露目式典は聞かず、整備を終える。（村上樹）

震災の記憶

忘れたくない 伝えたい

マンホールは、高層マンションが立ち並ぶ「高洲中央公園」の駐車場にある。液状化でアスファルトを突き破り、高さ約1メートルほどキノコのように頭を出した。もとは地下に埋設した災害用貯水槽の一部だったが、震災時に壊れ、断水に悩む市民に飲料水を配る機能は果たせなかった。

浦安 液状化遺構ひっそり完成

きょうの紙面
危険手当支払い請求
春の野山マダニ注意
孤立防く人集う仮設
WBCきょう開幕
「攻める防犯」が大切

判決後に「沖縄の心」

一方で、付近の住民らは「一度も市民に問うこともなく拙速に決められた」と反対、昨夏から年末にかけて約四千人の反対署名を市に提出した。しかし工事はそのまま続行、二月中旬までに完了した。今は道路から目に触れないよう植栽で覆う作業中だ。

ダイヤで取り上げられた。市が約百五十万円をかけ遺構設置に着手したのは二〇一二年秋。防災教育などへの活用も理由に挙げた。



①内陸に打ち上げられた第18共徳丸。宮城県仙台市で。②42人が津波の犠牲となった防災対策庁舎。宮城県仙台市で



東日本大震災の被害や教訓を伝える「震災遺構」の保存は、各被災地でも賛否が分かれている。「つらい記憶がよみがえる」という遺族感情や、復興に向けたまちづくりのため解体されたものがある一方、後世に悲劇を伝えようと残されるものもある。

被災各地で賛否

打ち上げられた大型漁船だ。陳情書を採択。これを受け、町が現在検討中だ。岩手県陸前高田市では「第18共徳丸」は、解体「奇跡の一本松」が、防り、市としてまた判断は属処理での復元を進めて付いていない。一方、同町、三月二十二日に完栗女川町にあるコンクリ形式典がある。同市の1ト製の基礎部分から倒「中央公民館」は建物が壊した「女川交番」は、解体されたが、そこで亡町の復興計画で保存の方くなったとみられる母に向。四十二人が津波の犠牲となった宮城県南三ツセージを書き込んだ壁陸町の「防災対策庁舎」は切り取られ、保存されは、町議会が「解体」のることになった。

2013.03.02
東京新聞（朝刊）/ 1

すつきりしないまま、いが、モニュメントは「は」と顔を曇らす。もうした声に、松崎秀樹市長は「震災を風化させないためだけの理解を求めている。ものだ。華々しくやる話ではなく、除幕式などは考えていない」と